

MCLS に於けるアスピリン血中濃度

日赤医療センター小児科 川 崎 富 作
今 田 義 夫

〔目的〕：MCLS 患者に投与したアスピリンの血中濃度を知り最適量を決定する事にある。

〔方法〕：投与量，病日，投与日数に分け考察し，アスピリン投与後3時間目に採血した。投与量は 50 mg/kg, 70 mg/kg, 100 mg/kg の3群に分けた。

〔成績〕(A) 50 mg/kg 投与群

19名の患者，延べ28検体につき行った。アスピリン投与日数は3日から36日までであった。最高血中濃度は 17.2 mg/dl であり，最低血中濃度は 1.8 mg/dl で平均血中濃度は 6.4±3.8 mg/dl であった。

(B) 70 mg/kg 投与群

7名の患者，延べ9検体につき行った。アスピリン投与日数は3日から29日までであった。最高血中濃度18.1

mg/kg，最低血中濃度は 2.7 mg/kg であり，平均血中濃度は 8.8±4.5 mg/dl であった。

(C) 100 mg/kg 投与群

13名の患者，延べ15検体につき行った。アスピリン投与日数は1日より51日までであった。最高血中濃度は 21.3 mg/dl，最低血中濃度は 1.5 mg/dl であり，平均血中濃度は 15.6±7.3mg/dl であった。

〔結果〕：アスピリン50 mg/kg, 70 mg/kg 投与に於ては投与日数，病日に関係なくほとんどが 10 mg/dl 以下の低い血中濃度しか得られず，100mg/kg 投与群に於てのみ，投与日数，病日に関係なくほとんどが 15 mg/dl 以上の高い血中濃度が得られた。

MCLS 患児における治療法，浅井，草川のスコアーと冠動脈病変との関係

日赤医療センター小児科 川 崎 富 作
菌 部 友 良

〔目的〕：①冠動脈病変の発生を防止する為に最良の治療法を見いだす事

②冠動脈病変と臨床症状特に浅井，草川のスコアー表との相関を見る事

〔方法〕：冠動脈造影を行い，その結果を治療法及び浅井，草川のスコアーと比較した。

〔対象〕：本院小児科に入院した患児53例で，スコアーの高いもの，親の希望の強いもの，重症感のあるもの等で，アットランダムではない。

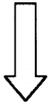
〔結果〕：①スコアーとの関係

患児53名中冠動脈病変のあったもの9例で17%であった。正常者44例のスコアーは平均4.7±3.4でその分布は

0～15点であった。異常者9名のスコアー分布は3～12点，平均8.2±2.5であった。スコアー9点以上の者11名中異常者は4例(36%)，スコアー6～8点の者13例中4例(30%)に異常が見られた。スコアー5点以下の者29例中異常者は1例(3%)のみであった。スコアーの項目別に見ると1. 発熱期間の長いもの，2. 再発熱のあるもの，3. 血沈正常化の遅れたもの，に冠病変の存在するものが多かった。

②治療法との関係

ステロイド使用群21例中4例(20%)に冠病変が見つかり，ステロイド使用非使用群32名に異常のあったものは5例(16%)であった。以下各治療法別冠動脈病変の



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



〔目的〕:MCLS 患、者に投与したアスピリンの血中濃度を知り最適量を決定する事にある。